

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ヤマガタケン 山形県	市町村名	カホクシチョウ 河北町	地区名	ヤチチヤク 谷地地区	面積	108 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標

大目標：雑とべに花の文化が残る歴史資源を活用した交流拠点を整備し、中心市街地に賑わいを取り戻して心豊かに四季生き生きと暮らせるまちづくりを行う。
 <目標1>交流拠点としての役割を高め、中心市街地の賑わいを再生する。 <目標2>良好な居住環境の形成による定住人口の拡大を図る。 <目標3>水・緑・歴史資源を活かした交流人口の拡大を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本町は山形県のほぼ中央に位置し、面積52Km²、人口2万1千人の町で、県内町村では2番目の人口を持っていますが、昭和60年をピークに年々少子化によりゆるやかに減少しています。中世から近世にかけて最上川の舟運による紅花交易で栄えた本町は、京都や大阪のいわゆる「上方文化」が県内でもいち早く定着し、毎年4月には時代雑を公開する谷地ひな祭り、9月には国の重要無形文化財となっている谷地舞楽を公開する谷地どんが祭りに、県内外より多くの観光客が訪れています。本町はこのように歴史のある町であり、その中心である谷地地区においては数多くの社寺や蔵が残っています。また、谷地地区は本町の中心として人口1万人を擁し、近年、街路事業や土地区画整理事業によりインフラの整ったコンパクトな市街地を形成し、人口増加が見られます。中心商店街は、昭和51年に先進的に取り組んだアーケードがあり賑わっていましたが、道路交通網整備やモーターゼーションの発達、さらには郊外への商業展開などにより、平成4年、交流拠点の役割を担っていた大型店舗の撤退を機に空き店舗が増え、歩行者数も減少し観光客も減少している状況にあります。そうした中で、平成13年度に山形県が定めた「コンパクト交流文化都市構想」の指定を受け「河北町アクションプラン」を策定し実施中のところ平成15年には、住民や商工会によって相ついで中心市街地の活性化の協議組織が立ち上がり自主的にイベントを行う等、町の設置した「まちづくり懇談会」と官民一体となった都市再生の気運が急速に盛り上がり、河北町中心市街地活性化基本構想が策定され事業化の期待が高まっています。

課題 先人から受け継がれてきた「谷地ひな祭り」、「谷地どんが祭り」をはじめとした「雑文化」や「紅花文化」は今も町民の心のよりどころとなっております。これらの雑と紅花の歴史と個性豊かな文化を継承発展させ、魅力あるまちづくりが必要です。特に本町の顔である谷地地区においては、町全体の活力の中心として、日々の賑わいと交流の促進を図り笑顔があふれ、元気が湧き出るまちづくりが必要です。

<商店街の活性化>

・谷地地区中心部にある商店街は近年の経済情勢の低迷、人口減少等の影響を受け空き店舗や空き地が増加しており、商店街としての連続性の危機にあり、楽しく集える拠点施設がなく回遊性も不足しています。中心市街地は、単なる商店街というだけでなく本町の歴史や住民の生活と密接に関わっており、まち全体の活力と賑わいを取り戻すうえで重要な役割を担っていることから、その機能を回復させる必要があります。

<まちなか居住の推進>

・谷地地区中心部の既成市街地はかつて城下町であったため住宅等が建て込み密集市街地となっており、中心市街地の役割を確保する良好な住環境が望まれています。一方、新たな市街地整備として土地区画整理事業を展開していますが、より多くの定住人口を確保し新市街地と中心市街地の一体となった良好な景観形成が望まれます。

<歩行空間の整備>

・長い歴史を誇る本町には、1,100年の歴史を有する谷地舞楽や古松・古木、400年の歴史を誇る春の谷地ひな祭りや、秋の谷地どんが祭りなどのお祭りが今も暮らしに息づいており、その多くが中心市街地に残されています。それらの地域的資源とイベント等を組み合わせた交流人口の拡大や、かつて谷地城の堀に引水したまちなかの川の流れを活用して緑のある広場や水辺空間を創出し、特に冬になると家に引きこもりがちとなる住民と来訪者が四季を通して回遊して楽しめる中心市街地形成が望まれます。

将来ビジョン(中長期) 上位計画である「河北町創造発展計画」あるいは「河北町都市計画マスタープラン」では、中心市街地の目標と将来像を各々「雑とべに花の里－躍動する産業とにぎわいのある町」、「魅力ある都市空間と良好な住環境を誇るまち」と位置づけています。

本町人口の半分が暮らし、町の中心である谷地地区のビジョンとして、市街地や都市機能が無秩序に拡散せず、高度な土地利用と既存社会資本の活用や資本の集中整備等、効率的な投資を行い、人と人との関係が緊密な都市づくりを目指すとともに、まちづくりの基本である町民が健康で安心・安全・快適に生活できる地域社会実現のため、本町の歴史・伝統・文化・社会資本を活かした、人・物・情報の交流を盛んにします。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
通りの歩行者数	人/日	計画区域内4地点の歩行者通行量の平日と休日の延べ人数	生活中心としての役割の強化に向けて、通りの歩行者数を指標とする。高次都市施設による交流の拡大を見込む。	平日 1,454	H16	平日 2,000	H20
				休日 993		休日 2,000	
来訪者観光客数	万人/年	計画区域内の観光客数(商工観光課調べ)	来訪動機の創出により、市街地における交流人口の増加を見込む。	39	H15	50	H20
商業年間売上額	百万円/年	商業統計調査	既成市街地・新市街地内で、定住・交流人口の拡大による売上額の増加を見込む	25,455	H14	27000(推定値)	H20
住民満足度	%	町民意識調査(谷地地区)	都市アメニティの向上による満足度を6割に向上(配布1,002件・回収539件)	43.0	H12	60.0	H20